

国際交流 もりおか

Morioka International Relations Association



【発行】公益財団法人盛岡国際交流協会 〒020-8530 岩手県盛岡市内丸12番2号 盛岡市役所別館7階
 【TEL】019-626-7524 【FAX】019-622-6211 【URL】http://www.mira-morioka.com/ 【E-mail】info@mira-morioka.com

盛岡市は、昨年（2019年）11月24日に、花蓮市（日：かれんし 英：Hualien city）と友好都市提携を締結しました。2002年からスタートし2007年、2016年と盛岡秋祭りの山車流遣や消防団などの民間交流をはじめ、盛岡さんさ踊りにも、台湾から舞踏団が参加するなど、相互交流を行ってきました。2018年からは、花巻空港から台北まで国際定期便が就航しており、ますます身近になった台湾・花蓮市をご紹介します。



花蓮市と盛岡市の位置関係

花蓮市在哪儿？

花蓮市はどこにある？

台湾は、花巻空港から約3時間（帰りは約4時間）というアクセスの良さを誇り、時差はたったの1時間です。花蓮市は、台湾東部中央に位置する花蓮県の県庁所在地で、県内で人口・面積ともに最大。山と海に囲まれており、太平洋に面する東側には、国際港である花蓮港があり、

港からは豊富な川砂や特産の大理石等が沖縄県にも陸揚げされています。日本の最西端に位置する与那国島とほぼ同緯度に位置し、距離はわずか約110kmです。



2019年11月24日 友好都市協定締結の様子（花蓮市内）

盛岡市的新友好都市 台湾・花蓮市

盛岡の新しい友好都市 台湾・花蓮市

從花車交流開始友誼

山車交流から始まった友情



2019年11月23日 太平洋温泉花車フェスティバル参加の様子

盛岡市と花蓮市との交流のきっかけは20年前に遡ります。2000年11月に盛岡市が台北国際旅行博に初出展した際、台湾観光協会理事が山車の資料に興味を持ち、翌年9月には秋祭り視察として観光協会理事一行が来盛しました。2002年11月には、盛岡市長、議長、盛岡山車推進会長ほか66名が『花蓮観光の日』パレードに初参加。その後も、お互いの祭りや旅行博への出展、山車を派遣してのパレード参加などを通して、両市は友情を育んできました。このような交流が礎となり、4回目の訪台となった2019年11月24日、花蓮県長立会いのもと、盛岡市と花蓮市は友好都市提携を締結しました。盛岡市の都市間交流では、ピクトリア市との姉妹都市提携、沖縄県うるま市と東京都文京区との友好都市提携に続く4都市目となりました。

從花蓮收到了預防物資

花蓮からの感染予防支援

新型コロナウイルス感染症が世界中で拡大する中で、台湾は封じ込めの成功例としてニュースにもなりました。日本でも感染が徐々に広がり、緊急事態宣言が発令されるなど、緊迫した状況が続いた本年度当初。ウイルス感染予防により直接的な相互交流が難しい中で、花蓮市からは、5月には3Dプリンターで作成したフェイスシールド30個、6月には医療用マスク2500枚が寄附されました。フェイスシールドと医療用マスクは、感染者治療に従事する医療関係者に活用していただくため、感染症指定医療機関に指定されている盛岡市立病院に受け渡しを行いました。

花蓮市長魏嘉賢氏は、昨年発生した0206大地震の際に、姉妹都市の皆さんが助けてくれたことの恩返しとして、姉妹都市・友好都市等の3カ国7つの都市（与那国町、高千穂町、盛岡市、韓国蔚山市、米国ベルビュー市、アルバカーキ市、石垣市）にフェイスシールドなどの感染防止物資を寄贈しました。



2020年7月10日 花蓮市から届いたマスクを市立病院へ

EVENT REPORT

今年度上半期に開催した盛岡国際交流協会のイベントをご紹介します。

スイス出身ラファエルの フランス語講座

2020年8月20日~9月10日(木曜日全4回)



新型コロナウイルス感染拡大により3月の開催が中止となった講座ですが、検温やマスクの着用、ソーシャルディスタンスなどを踏まえ、8月下旬から開催しました。スイス出身のラファエルさんを講師に、フランス語の入門編として、挨拶や道の尋ね方、お店での注文の仕方に加え、先生の母国であるスイスのお勧め観光スポットなども御紹介いただきました。殆どの講座が、新型コロナウイルスの影響で中止となった中、国際交流と語学への新しい扉を開く貴重なイベントとなりました。



中学生による国際交流作文コンテスト

募集期間 2020年3月~5月27日迄 審査結果 7月20日発送

過去17回にわたり毎年開催していた『中学生による国際交流スピーチコンテスト』を今年も開催する予定でしたが、こちらでも新型コロナウイルス感染拡大のリスクを考慮し、『作文コンテスト』として開催しました。当初は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視しつつ、開催手段を探しておりましたが、募集期間中に、全国に感染が拡大し緊急事態宣言が発令され、自粛期間となりました。市内の中学校も休校になるという不安な状況下でも、10校24人という多数の応募をいただきました。ご応募いただいたみなさんにこの場を借りてお礼申し上げます。また、カナダでも感染が広がっていたことから、今年度は『中学生ピクトリア市研修』も中止となり、参加を希望されていた応募者の皆さんは、残念な思いをされたことと思います。来年は、ワクチンの開発も進み、国際交流事業が再開できることを事務局も祈っています。

作文コンテスト受賞者 おめでとうございませう

入賞作品

最優秀賞	岩手大学教育学部附属中学校	2年	高橋 希林さん	『心をつなぐ芸術文化を世界へ』
優秀賞	盛岡市立土淵中学校	3年	佐々木 光咲さん	『「日常の幸せ」を分かちあえるように』
	盛岡市立黒石野中学校	2年	島津 咲希さん	『つなげたい世界と盛岡』
	盛岡市立黒石野中学校	2年	千葉 小百合さん	『私の大好きな「盛岡」を世界に』
	盛岡白百合学園中学校	3年	野田 優芽乃さん	『世界から盛岡へ、盛岡から世界へ』

作文コンテストの審査には、菅原真さん(元ロッテルダム日本人学校校長、元中学校校長)、山田佳奈さん(岩手県立大学准教授)、レドナ・ジェニファーさん(岩手県ふるさと振興部国際室国際交流員)、山内浩さん(盛岡市教育委員会事務局学校教育課指導主事)に御協力いただきました。審査員の先生からは、「このような状況ではありますが、これからも海外に目を向けることを止めず、生徒の皆様にはチャレンジする心を失わないで欲しいです。」とのお言葉をいただきました。

← 最優秀賞と優秀賞の5作品は、ホームページで公開中です。QRコードから是非ご覧ください。



令和2年度補助金交付制度の第2次申込の締切りは、11月6日(金)です

盛岡国際交流協会では、市内の民間団体が行う国際交流活動を支援するため、補助金交付制度を設けています。昨年度は、NPO法人Asia Environmental Allianceの「岩手大学生とインドネシア国立ガネーシャ教育大学生のさんさ踊り国際交流事業」と(一社)盛岡青年会議所の「羅東国際青年商會との姉妹JC交流事業」の活動を支援するため補助金を交付しました。令和2年度第1次募集(春期)は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、残念ながらお申込みがありませんでした。第2次(秋期)も募集しておりますので、新しい生活様式を實踐し、「世界に開かれたまち・盛岡」のために国際交流活動を行いたいという方は、是非、補助金交付制度をご利用ください。詳しくは、HPの「助成・支援」をご覧ください。本制度について、ご不明な点がございましたら、お気軽にご相談ください。



さんさ踊り練習するインドネシアの大学生(昨年度補助金交付事業より)

MIRAは、4月から盛岡市役所 別館7Fに移転しました

盛岡国際交流協会は、2020年3月まで盛岡市役所本館1F(市民部市民協働推進課内)にありましたが、4月より、別館7F(交流推進部文化国際課内)に移転しました。電話番号・メールアドレスには変更ありません。今後ともよろしく願いいたします。



Foreign Friends in MORIOKA

今回ご紹介するのは、盛岡の姉妹都市であるビクトリア市（カナダ）出身で、現在は盛岡在住のシャーラさんです。シャーラさんは、“Sharmeleon”というYouTubeのチャンネルで、日本文化や食べ物、旅行や美容に至るまで、様々なコンテンツを動画（日本語と英語）で紹介しているユーチューバー!! 盛岡に住んでいる理由や、ユーチューバーになったきっかけなどを伺いまし

ビクトリアで生まれ育ち、初めて盛岡に来たのは16歳の時!

盛岡に初めて来たのは、16歳の時、高校の交換留学プログラムで2週間滞在しました。ビクトリアには、19歳まで住んでいました。その後、また盛岡に来て3年過ごした後、大学課程を修了する為にカナダに戻ったのですが、2011年3月に震災があって、また災害が日本であった時に、日本の友達とすごく離れているのが嫌で、千葉県の大学に編入して、学士過程を終了しました。それからずっと日本に住んでいます。私は、東京のような大都市よりも地方の方が本当に楽しいです。3年間、東京に住んだこともありますが、楽しめませんでした。19歳の時から盛岡に住んで以来ずっと、また戻ってきたいと思っていました。世界中のどこからでもできる仕事をしているというのがあるって、盛岡に帰って来よう!と思いました。都会よりも、みんなすごくフレンドリーですし、人込みがないところもいい。



シャーラさん
ビクトリア市（カナダ）出身 盛岡市在住

シャーラさんが思う、盛岡とビクトリア 姉妹都市の共通点、日本でどうしても慣れないこと!?

16歳の時に、高校の交換留学をした時に、姉妹都市関係のことは学びました!確かに沢山の共通点がありますね。都市のサイズ感とか人口はとても似ていますし、ビクトリアも綺麗な自然に囲まれています。盛岡でもお花が沢山あることに気づきました!ビクトリアは花の街として有名ですから、故郷をよく思い出します。特に、川沿いを歩くのが大好きです!盛岡にはいくつも素敵な散歩道があって本当に嬉しいです。岩山からの夕焼けも大好きですよ。盛岡は、広々としていて、緑が多くて、フレンドリー!ですが、湿気は大嫌い(笑)。カナダは湿気が全く無いので、慣れないんです。夏の間は、引きこもっていて、エアコンの下にいます。ビクトリアの気候の方がもちろん好きですが、盛岡では雪が楽しめます。ビクトリアでは雪が降ることがそんなにないので、私にとってはすごく楽しいことです。日本で、お気に入りの県は、岩手と山形!ドライブで田舎の方に出かけるのが大好きで、岩手と山形にはどちらも、美しい景色がたくさんあります。秋に、八幡平を駆け抜けるのは壮観!ですが、私の究極の経験は、おそらく、広島島のしまなみ海道です。島々と橋、あそこで見た夕焼け景色は、ただただ素晴らしいかったです。



私のお気に入りの写真「秋の山形」

気になる職業ユーチューバーになったきっかけは?

私は、2015年からフルタイムでユーチューバーをしています。決してなろうと思ってなったわけではなくて、実は大学のプロジェクトで始めたのがきっかけですが、沢山の知らない人が私の動画を見始めて(笑)。私の動画に興味がある人がいるとは思ってもみなかったし、将来の留学生の為に、日本の生活がどんな感じかを伝える動画を作っていただけでした。動画の人気が出始めて、つづけた方がいいかもしれない、コンテンツの質を上げてみよう、そんな形で“ユーチューバー”になりました。

料理に挑戦したり、本を読んだり、どんどん文化を吸収する日々 あの女優さんに英語を教えたことも!!

クックパッドでレシピを見て、作ってみるのが好きです。大豆が入っているものは何でも好きです!揚げ出し豆腐、冷やっことか、枝豆、豆乳、全部好きです。私のお気に入りのキャラクターの一つはゴジラ(笑)。実は、映画『シン・ゴジラ』の撮影現場でお仕事をしたことがあって、石原さとみさんに英語を教えました。彼女はとってもフレンドリーで、彼女と働いたことはすごく光栄なことでした。今読んでいる本は、『岩手の怖い話』という岩手の幽霊の本です。

日本語も堪能なシャーラさんが考える 語学勉強に一番大切なこと

私は、13歳から大学まで日本語の勉強を続けてきました。殆どは、日本人の友達と話したり、アルバイトで使って学びました。カナダにいた頃、日系のスーパーマーケット、お寿司屋さんで働いていたのと、日本からの留学生へのツアーガイドもしていて、日本語を練習する機会が沢山あったんです。語学を学ぶときに一番覚えておかなきゃいけないことは、恥ずかしがらないこと!だと思います。間違えたり、挑戦することでのみ上達できるんです。もしあなたが、間違ってしまうと、話すのが怖いと思っているなら、絶対に上達しません。間違えることが、一番の学びです!16歳の時に、初めて盛岡に来た時に、お店の人に「いらっしやいませ」と言ってしまったのを覚えています。すごく恥ずかしかったです。それから、幸運にも恥ずかしい経験はしていません。

日本の多文化共生を促進するには...

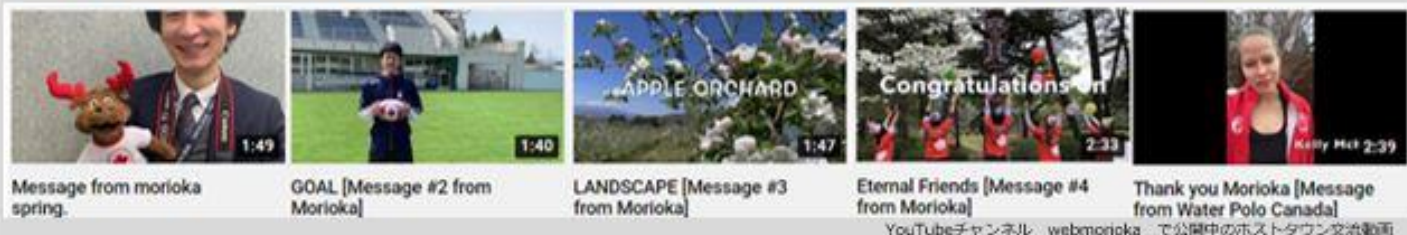
日本でも、みんながそれぞれの国の食べ物や文化を紹介できるような、多文化のお祭りがもっとあればいいだろうなと思います。カナダではそういうイベントがよくありますよ!色々な国の食べ物を試食できて楽しいし、演舞を見たりとか、異文化のことを学んだり。ここでも多文化主義を根付かせる、いい方法だと思っています。

盛岡のみなさん!優しく、歓迎してくれるコミュニティを作ってくれてありがとうございます!私は盛岡に住んでいることを誇りに思いますし、YouTubeで私の動画を通して、それがどんなに素晴らしいことなのか、頑張ってお知らせしていきたいです。



Morioka Host Town Project

動画で相互交流



新型コロナウイルスの感染拡大により、東京オリンピックの延期が3月に正式決定しました。盛岡市はホストタウンとして、オリンピック開会式開催前にカナダの7人制ラグビーと水球、そしてマリ共和国柔道チームの事前キャンプの受入を予定しており、様々な交流を計画していましたが、全て延期となりました。これを受けて、ホストタウン事業を推進するスポーツツーリズム推進室では、各チームとの動画交流を開始、これまでに5本の動画を作成し、YouTubeの盛岡市のチャンネルであるwebmoriokaで公開してきました。2018年6月に女子、8月に男子の事前キャンプを盛岡で実施したモンリオールに本拠地を置く『水球カナダ(Water Polo Canada)』からは、来盛した選手たちからお返しの動画が届きました。「ビデオを作ってくれてありがとう。滞在中の楽しい思い出がよみがえった」「盛岡の皆さんもご家族と安全に過ごしてほしい」「またすぐ会えるのを楽しみにしている。盛岡での一番の思い出は、わんこそばに挑戦したこと」などの温かいコメントをいただきました。

ホストタウン交流のきっかけとなった盛岡市とビクトリア市(カナダ)の姉妹都市交流は、今年で35周年という記念の年を迎えました。動画第4弾となった“Eternal Friends (Message #4 from Morioka)”では、盛岡に点在するビクトリア市関連の史跡を紹介したり、毎年実施している『中学生ビクトリア市研修』に参加経験を持つ学生たちからのコメントも盛り込み、「Go! Canada! (カナダがんばれ!)」とメッセージビデオを通して選手たちを激励しました。中学生の時に初めて姉妹都市を訪れた時より、飛躍的伸びた生徒達の英語にも注目です。コロナウイルス拡大直後は、練習環境も確保できず、各自工夫して自主練をしていた選手たちですが、徐々にプールやフィールドなどの利用も出来るようになってきたとのこと。選手たちにとっても、依然不透明な状況が続きますが、盛岡市は、離れていてもホストタウンとして出来ることを続けています。今後も、来年3月まで約2カ月に1回動画の制作を予定しており、選手たちへの歓迎と変わることの無いホスピタリティを、美しく変化する盛岡の情景や風物詩の映像にのせて紹介する予定です。是非、盛岡市のYouTubeチャンネル、webmoriokaをご覧ください。

中学生ビクトリア市研修経験者のみなさん 動画へのご協力ありがとうございました！



Happy 35th Twin City Anniversary Morioka ♥ Victoria

盛岡市とビクトリア市では訪問団が相互に行き来するなど、姉妹都市提携35周年を記念して様々な行事が予定されておりましたが、感染症の影響で相互の往来が難しい状況となり、全て延期となりました。直接的な交流が出来ない中、協会では、提携日の5月23日に盛岡城跡公園にあるトーテムポールの前で記念写真を撮影し、SNSに掲載しました。

ビクトリアからは、ビクトリア盛岡友好協会のマクレディ会長をはじめ、ヘルプス市長などがインナーハーバーにある友情の鐘に集まり、35周年を記念した心温まるセレモニーの様子を動画にして送ってくれました。マクレディ会長は、「実際に訪問することはできないが、心の中では握手やハグをしている気持ち。新渡戸稲造が描いた夢をまた一緒に祝える来年が待ち遠しい」と述べています。動画は、webmoriokaにて公開中です。



インナーハーバーにある“友情の鐘”にて (2020年8月2日(日))

賛助会員募集中！！

会員になると当協会が主催する語学講座をはじめとする各種講座・イベントの参加費の割引などが受けられる他、賛助会員は優先的に受講が可能となります。会員だけが参加できる交流イベントへのご招待もあります。皆さまの御参加をお願いいたします。

●年会費

個人：一口1,000円

団体：一口10,000円 (4月～翌年3月まで※1年ごとに更新となります。)



盛岡国際交流協会キャラクター